

「幸いにも」が
いつまでも続くとは限らない
だからこそ、いつも心に防災を

市役所危機管理課
☎ 055-948-1482

◆ 11 月は「地震防災強化月間」

自らを 守る力が 地域を守る
みんなで築こう 確かな絆

毎年 11 月は、静岡県が定める「地震防災強化月間」です。今年 1 月に地震調査研究推進本部が発表した南海トラフを震源域とする地震発生の 30 年確率は 70% となっており、切迫した状態に変わりがありません。

昨年度公表された静岡県第 4 次地震被害想定では、従来よりさらに広域の地震災害が想定されています。地震防災の原点に回帰し、自分と家族の命は自ら守る「自助」と、皆で助け合い、支え合う「共助」を実践するよう取り組みましょう。

◆ 11 月 5 日(水)は「津波防災の日」

海の近くにいるとき、強い揺れや弱くても長い揺れの地震があった場合には、津波が発生することがあります。警報などの情報を待たずに、速やかに高い場所へ避難しましょう。海辺へ出かけたときには、あらかじめ避難場所を確認しておきましょう。(市内では、津波による被害は想定されていません。)

◆ 11 月 9 日(日)～15 日(土)は
秋季全国火災予防運動

もういいかい 火を消すまでは
まあだだよ
期間中、20 時にサイレンを鳴らします。火の扱いには、十分注意しましょう。

◆ 12 月 7 日(日)は
「地域防災訓練の日」

毎年 12 月第 1 日曜日は、静岡県が定める「地域防災訓練の日」です。
今年は 12 月 7 日(日)に、市内各地で防災訓練を行います。市民全員参加をお願いします。



上：滋賀県近江八幡市
「さざなみ浄苑」

右：山梨県南部町
「南部アルカディア聖苑」



【周辺環境と調和した斎場の外観】

目指すべき火葬場の姿

厳粛さと安らぎのある施設

人口推計によると、2035 年度までは、死亡者数が増加し続ける予想が出されています。そのため、将来の火葬需要に的確に対応できる火葬炉や駐車場、待合室を備えた火葬場を計画したいと考えています。また、十分な環境保全対策と、周辺環境と調和した景観を持たせた施設、そして、厳粛さと安らぎのある火葬場の整備を目指していきます。
なお、火葬場の設備や整備場所については、現在策定中の「斎場整備基本構想」の結果や、市民の皆さんからの意見や要望などを参考に検討していきます。

「火葬場を考える講演会」開催のお知らせ

人生最後のお別れをする新たな火葬場について
考えてみませんか？

とき／ 12 月 6 日(土) 19:00～21:00 (開場 18:30)

ところ／ 韮山時代劇場 映像ホール

講師／ 武田 至 工学博士 (社団法人火葬研代表理事)

講演内容／ 「火葬の昔と今 ― 弔う空間としての火葬場 ―」
・無煙、無臭、無公害化された最新型の火葬炉とは
・周辺環境と調和した景観を持たせた火葬場とは

近年における火葬場の^{へんせん}変遷

― 今どきの火葬場 ―

人生の終えんの場にふさわしい厳粛さと安らぎのある、誰にでも分かりやすく使いやすい施設として利用していただけるように整備を進めていきます。今回は、「今どきの火葬場」と題して、新しく整備された火葬場の仕組みや、事例を紹介します。

「火葬場らしくない」デザインを取り入れた火葬場

昭和初期から末期にかけては高い煙突が火葬場の象徴となっていました。およそ 1990 年代以降に設置された火葬場では、煙突が見られることがほとんどなくなりました。燃料の灯油・ガス化により、ばい煙の発生が減少したこと、再燃焼室の設置により無煙、無臭化が進んだことで、極端に短い煙突でも周辺に悪影響を及ぼすことがなくなりました。
長岡斎場も、昭和 58 年に供用を開始。周辺環境に配慮し、外部からは煙突を

見ることができない構造となっています。一方、平成 20 年度に供用開始した伊豆市の「伊豆聖苑」では、煙突はなく、壁に取り付けられた排気口があるだけで、建物のデザインも火葬場を連想させない工夫がされています。他の自治体でも「周辺環境と調和した景観を持たせた火葬場」、近隣住民へ配慮した「火葬場らしくない」デザインを取り入れた火葬場が数多く建設されています。

種 類	原因	最新施設	現在の長岡斎場
ばいじん、ダイオキシン類	主に棺に納める副葬品などの燃焼や、不完全燃焼が主な原因です。	副葬品の制限に加え、法の規制対象にはなりません。ごみ焼却場に導入されている同型式の「バグフィルター(集じん装置)」などを設置しています。	騒音・振動が発生する機器類は、コンクリート壁に囲まれた火葬作業室内に設置する防音対策がされています。
騒音・振動	バーナーの燃焼音と、強制排気のための排風機などが主な原因です。	低騒音および低振動の設備機器の設置と、建物や施設には防音・防振、吸音・吸収材を使用して、周辺地域や告別室、待合室などに影響を及ぼさないよう対策を講じています。	騒音・振動が発生する機器類は、コンクリート壁に囲まれた火葬作業室内に設置する防音対策がされています。
ばい煙および悪臭	火葬炉の燃焼温度が低いために起きる現象であり、完全燃焼されていないことが主な理由です。	火葬炉で発生した燃焼排ガスは、再燃焼炉で、八百度以上の高温に再燃焼(熱分解)することにより、ばい煙(黒煙)および悪臭を除去し、無煙、無臭化しています。	再燃焼炉を設置しており、八百度以上の高温で再燃焼をしています。

公害防止対策を備えた環境に配慮した施設

近年は、火葬場から発生する排ガス(ばい煙、ダイオキシン類など)、悪臭、騒音、振動などが周辺環境に影響を与えないように、十分な環境対策が施されています。

【最新施設の公害対策】